

令和2年度 総合教育会議資料

小中学校適正配置事業	・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
地域のみんなでこどもたちの居場所づくり事業	・・・・ P2
日工大サイエンスプロジェクト	・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
まちなかどこでもミュージアム事業	・・・・・・・・・・・・・・・・ P4
西原自然の森活用事業（移築民家活用編）	・・・・・・・ P5

宮代町教育委員会

小中学校適正配置事業

目標

将来予測される児童生徒数の変化に応じた学校施設の規模と適正配置について検討し、学校施設の更新（建替え）に対応した学校づくりを通して、教育環境の向上と学校を核とした地域づくりを進めます。

実施内容

令和3年度

- 審議会で検証された結果を踏まえた現在の適正配置計画等の再検討
- 答申の内容及び再検討結果の公表

令和4年度以降

- 再検討された適正配置計画等に基づく取組の実施

児童生徒にとってのより良い教育環境の整備と、教育の質のさらなる向上を目指した学校の適正規模及び適正配置を推進していきます。

地域の人々でこどもたちの居場所づくり事業

目標

子どもが孤立しないための居場所づくりを行う人や活動を応援し、地域の人々が主体となった取り組みを広げます。また、学校に通えない児童生徒のために学外の場を整備し、心の居場所や学びの機会を提供します。

実施内容

令和3年度

- 地域・学校の実態把握及び教育支援センター（適応指導教室）の在り方の検討
- 子育て支援課及び福祉課との連携体制の構築（調査研究・ネットワーク構築）
- 必要な施設改修・設備・備品等の整備及び人材の確保
- 教育支援センター（適応指導教室）設置条例の制定

令和3・4年度以降

- 包括的な支援体制の構築及び拡充の検討
- 教育支援センター（適応指導教室）の開設及び運用

「心の居場所」を提供し、学校への復帰や進学を見据えた学力、社会的自立を見据えた基礎的な学力を身に付けられるように支援をしていきます。

日工大サイエンスプロジェクト

目標

理科の授業において、大学の施設や設備を使った専門家による科学体験を実施します。その中で、子供たちの理科に対する興味・関心を高め、理科好きの子供を育成し、自ら学ぶ児童生徒を育成します。

実施内容

令和3年度

- 日本工業大学も設備、先生に関する情報収集
- 学校の教育課程の確認
- 必要な支援方法の検討

令和3・4年度

- 日本工業大学、学校、教育委員会との情報交換会の実施

令和4・5年度以降

- 日工大サイエンスプロジェクトの実施

**理科に対する興味・関心を高め、
理科好きの子供を育て、
自ら学ぶ児童生徒を育成する**

まちなかどこでもミュージアム事業

◆事業の目的

既存施設や飲食店など、気軽に美術作品の展示や小さな演奏会ができるスペースを募集し、まちなかにおける作品展や音楽会の開催を促します。このことで地域の人材を発掘し、地域に人々の集まる新しい場所を生み出すことを目指します。

◆事業の概要

令和3年度

①飲食店等で行う作品展や演奏会等の実施方法を検討します。

⇒ 作品展や演奏会等ができる飲食店等の募集方法や創作活動や演奏活動等を行う者（アーティスト）とのマッチング方法などを検討します。

令和4年度

②作品展や演奏会などを実施できる飲食店などとのマッチングを促します。

⇒ アーティストと飲食店等が出会うマッチングの場をつくり、マッチングした参加者による品展や演奏会等の準備を進めます。

令和4年度以降

③まちなかでの作品展や演奏会等を参加者により開催し、気軽にアートを楽しみ交流できる場の創出支援を行います。

◆参考イメージ



▲飲食店での演奏会



▲ストリートパフォーマンス

西原自然の森活用事業（移築民家活用編）

◆事業の目的

福祉拠点として再整備される旧ふれ愛センターとともに西原自然の森の魅力を高めるため、「旧加藤家」「旧齋藤家」「旧進修館」を古い建物の特性を生かした美術作品の展示や音楽活動などの文化活動や体験講座、地域活動ができる場所とします。

◆実施内容

令和3・4年度

① モデル事業の実施

⇒ モデル事業として移築民家や前庭などを活用した郷土資料館主催事業や市民団体との共催事業を実施し、利用できる分野や範囲、時間、人数などを検証します。

令和4年度

② 仕組みづくりと運用準備

⇒ 文化財保護に留意しつつ、一定ルールの下で町民が利用できる仕組みを作り、広報やホームページで公表し、この仕組みのもとで町民による活動が行われるようにします。

令和5年度以降

③ 活用支援



▲旧加藤家住宅



▲郷土資料館事業「かやぶき民家で聞く昔ばなし」